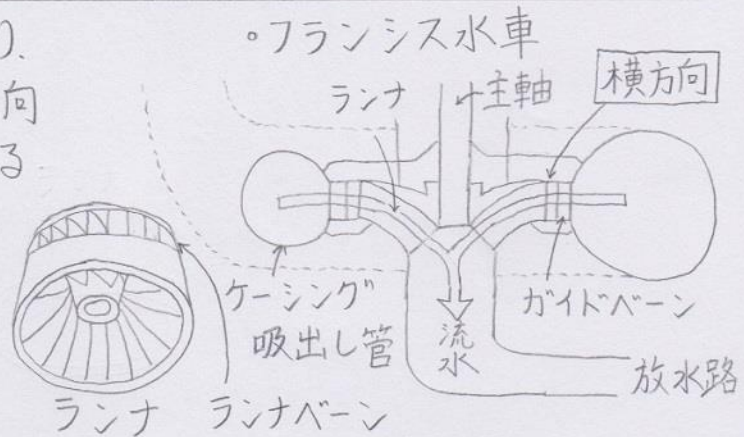


104. フランシス水車と斜流水車

- 流水はガイドバーンを通り、ランナの全周から主軸方向に入り、ランナを回転させる
 - ランナを通った流水は吸出し管内を垂直に落下し、放水路に至る
 - 流量はガイドバーンの開度を変えて調整する
 - 吸出し管を設ける事で、ランナと放水路の高低差を有効落差とでき、効率が良くなる
- ① 中～高落差(40～500[m])に使用される
 - ② ランナバーンが固定
 - ③ 最高効率が高いが、部分負荷運転を行うと、効率が著しく低下する

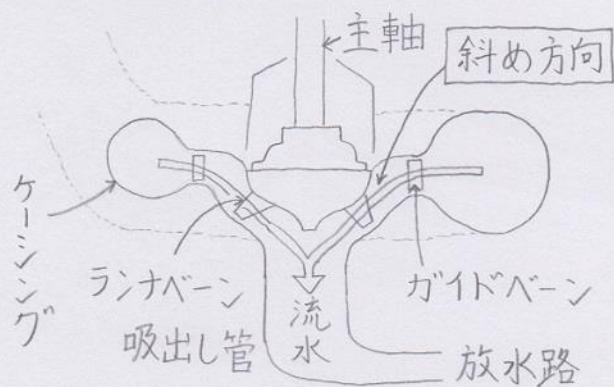


これが最も一般的に使用されている水車なのね



- ランナバーンの角度を変化できる可動羽根形(テリア水車)と、変化できない固定羽根形が有る
 - 可動羽根形は部分負荷や落差の変化に対しても効率の変化が少ないが、構造が複雑となる
- ① 中落差(40～180[m])に使用
 - ② 斜流水車は可動羽根形(テリア水車)が一般的

斜流水車・テリア水車



斜流水車はフランシス水車とプロペラ水車(次ページ)の中間的な特性

ランナバーンが可動の物もあるんだ

